

3. 5%ルール

2021. 10. 5

毎年、毎年、いろいろなことが起きる。それは仕方がないことである。だが、近年、起きていることの多くは人の手で防げることが多い。裏を返せば、人が原因で起きているとも言える。

気候変動の問題がある。50年や100年に一度の大雨と言われるものが、毎年のように降っている。その結果、毎年、日本でも世界でも大きな災害となっている。この原因の主なものに、地球温暖化があることは周知の事実である。

日本の本州は温帯のはずであるが、そのうち亜熱帯となるのではないかという話も徐々に現実味を帯びている。今まで雨が降ったことがないグリーンランドに雨が降るのである。我々の想像を超えることが起きてても不思議ではない。

地球温暖化という言葉を変えることを提案したい。この言葉に慣れすぎてしまっている。当たり前になっている。もはや温暖というレベルではないだろう。言葉が変わると、人の意識も変わるかもしれない。

もう少し、世の中がよくなるか、よくできないかと考えることがある。最近、「3. 5%ルール」という言葉に出合った。それは、次のことである。

非暴力的な活動は暴力的な活動に比べて、その成功率が2倍であり、またその活動に賛同する人の数がそのコミュニティの3. 5%に達したとき、失敗したことがない。

これは、今までの歴史が証明している。すべてにおいて、ごく普通の市民たちが、政界のエリートを退け、急進的な変化をもたらしている。ハーバード大学の政治学者エリカ・チェノウェスによると、平和的な活動は倫理的というだけでなく、最も強力な方法であるそうだ。

20世紀の数百年に及ぶ市民活動を調べた結果、非暴力的な活動は暴力的な活動に比べて、成功率は2倍であったそうである。また、その活動に賛同する人の数が、そのコミュニティの3. 5%に達したとき、失敗したためしがないそうである。

さらには、非暴力的な活動は平均して、暴力的な活動に対して、4倍の人を惹きつけるという統計もある。暴力的な活動と違い、平和的な活動は参加する人を選ばない。3. 5%という数字は、それほど大きくはないように思える。だが、目に見えて賛同する人が3. 5%にのぼっているのであれば、目には見えなくてもその活動に賛同する人は計り知れないほどいる状態なのだそうである。

3. 5%という数字を実際に考えてみる。100人中3. 5人である。1000人中35人である。次に、コミュニティで考えてみる。福島市の人口で計算すると、約9, 900人となる。福島県では、約64, 750人である。では、日本となると、約4, 385, 500人となる。

3. 5%というと、少ないというイメージがある。しかし、こうして計算してみると、なかなかの数字であることがわかる。変革をもたらすことが不可能ではないような気がしてくる。小さなコミュニティの集まりが、国であり、世界である。

今自分がいる場所で何ができるか。何をすべきかを考えることが大切であり、同じような考えや志をもった人たちが、3. 5%に達すれば何かが変わるかもしれない。いや変えなければならぬということだろう。少なくとも、「どうせ変わらないから」といった考えをもつことは避けたい。